

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402192		
法人名	社会福祉法人 杏寿会		
事業所名	グループホームあけぼの		
所在地	長崎県南島原市布津町乙674-3		
自己評価作成日	令和元年10月 1日	評価結果市町村受理日	令和元年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が毎日、充実した生活を過ごして頂く為にコミュニケーションを大事にし、居室で孤独にならない様に、日中、フロアへ誘導し、利用者同士はもちろん、職員は間に入り、会話しやすい雰囲気作りを行っている。又、楽しく自分らしい、生活ができるようにお手伝いしたり、ADLの低下を少しでも防げるよう、毎日、健康体操・歩行訓練・起立訓練等、利用者一人一人にあった訓練を行っています。ご家族と一緒に過ごすことが出来るように運動会や夏祭り等の行事には一緒に食事をして頂き、子供さん、孫さん、曾孫さんと過ごすことで、笑顔を見ることが出来ています。健康面でも明島整形外科と連携し、早めに受診したり、紹介状持参にて他の専門医にも受診を行っています。地域の行事、祭りや文化展作品展示等にも参加することで、知り合いの方が声をかけて下さり、地域との交流を行う事が出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは運営理念をもとに個人を尊重したケアに努めており、職員は受診や外出、入浴や食事などあらゆる場面において入居者・家族の希望に沿えるよう取り組んでいる。地域の行事(市民清掃・祭り・文化展など)にも積極的に参加することで地域との交流を深めており、繋がりも強い。今年度は災害マニュアルの整備やそれについての職員への周知、備蓄倉庫の整理及び管理に加え、新たに発電機を購入することで大規模災害だけでなく日常起こり得る停電にも対応できるよう考慮するなど、防災関係に力を入れて取り組んでいる。また、身体拘束ゼロに向けた取り組みとして、入居者の安全に配慮しながら職員による定期的な研修や身体拘束委員会での話し合いの機会を持つことで日々努めている。ホームは職員間の風通しも良く、接遇や言葉遣いなどについて職員同士で気軽に注意し合えるような環境となっており、施設長も職員の意見を尊重することで職員が入居者を第一に考えた支援を行うことができ、入居者が安心して生活できる事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 A

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼後に全職員で運営理念を読み上げ、唱和することで、理念の共有、実践につなげている。又毎日唱和する事で職員の意識付けを行います。	ホームでは毎日朝礼時に職員全員で理念を唱和し、意識付けを図っている。職員は理念の1つである「明るく、楽しく、自分らしく、笑顔のあるホーム・・・だから幸せ」をモットーに入居者一人ひとりを大切にしたケアに日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入ることで地域とのつながりを保ち、地域の行事への参加を行っている。 例)市民清掃、文化展作品展示、こんぴら祭り、神社お神輿参拝、等に参加して地域との繋がりを深めている。	ホームは事業所として自治会に加入し、地域住民との接点を持つよう努めている。市民清掃や祭りなど地域での各種イベントに参加するとともに、毎年入居者とともに地域の神社に初詣に行くなど、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	おやつや衣類等の買い物は定期的に近所のスーパーや洋服屋に行き地域の方々へ認知症の理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員の方、自治会代表の方、入居者やそのご家族で集まり、活動報告、質疑応答の時間を設けて、ホームに対する意見やアドバイス等を頂き、サービス向上に活かしています。5月、9月に実施している。	運営推進会議には行政・自治会代表・入居者家族などの参加があり、家族については参加者を固定せず交代で参加してもらっている。会議では時季に応じて感染症についての勉強会なども行っている。会議内容は入居者家族については郵送し、職員は議事録を閲覧することで情報の共有を図っている。	ホームでは防災等を踏まえて運営推進会議への地元消防団参加を検討しているとのことであった。更なる安全・安心なホームづくりに向け、例えば派出所や福祉事務所など地域の課題に応じた専門家の会議参加を検討するなど、今後の取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新申請や広域への書類の提出など、支所に出向いた際に市の職員と情報の交換など協力を行っている。	ホームは入居者の諸手続きにて市の窓口へ赴いた際に情報交換を行うほか、市及び島原地域広域市町村圏組合主催の研修会へ参加することで連携を図っている。研修会に参加した職員から他の職員に伝達することで、全職員への知見共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束に対して、全体カンファレンスで身体拘束委員会を設け話し合いを行っている。又、法人内で、研修を9月に行っている。	一時期精神状態が不安定となり車椅子より2度滑り落ちた方について、カンファレンス開催並びに家族への説明・同意を得、やむを得ず車椅子座位時の体幹拘束を行ったことがある。定期的に拘束解除に向けた検討会議を開催し、その都度家族にも現況報告を行った。現在は状態も安定し、拘束は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で虐待防止の研修を行っています。又、外部での研修にも参加し、職員同士で声掛けを行い、防止に努めている。8月に連絡協議会の研修に参加しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修で成年後見人制度に関する研修に参加し、必要に応じて、関係者と話し合いを行い、支援できるように努めている。現在、対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明を行い、ご理解を頂いている。疑問などがある場合はご家族が理解できるように随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の窓口、意見箱を設けている。ご家族の面会時に意見を聞いたり、6月の家族会等でも要望等を聞いている。	職員は入居者との日頃の会話や家族来訪時に意見や要望を聞き取るとともに、ホーム行事や年1回開催する家族会でも要望を伺い、運営に反映している。また、ホーム出入口には意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や2か月に1回の職員会議で職員の意見を聞き、話し合いを行い、ケアの統一を行っている。連絡ノートにて、全職員が共有できるようにしている。	施設長は日頃より職員とのコミュニケーションに努め、必要物品の購入や勤務体制の変更など、意見をもとに運営に反映している。職員から中庭のウッドデッキの劣化について改修の要望があり、床の張り替えを行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に応じ、レベルにあった指導を心掛け、向上心を持ち続けるように努めている。職員の声を基に働きやすい環境を作っているように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合った施設内や施設外の研修に参加してもらい、知識や技術の向上を目指している。連絡協議会、介護福祉士会、他に個人的に希望があれば、研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会に所属し、定期開催の施設長会議での情報交換、研修会、行事への参加など、協力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面会を行っている。その時に入所に関して不安なこと、困っている事、などを聞き、入所後の関係作りに心掛けている。環境の変化をなくせるように声掛けをしながら、少しでも不安をなくして頂けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族からもお話を伺い、本人のこれまでの生活歴の聞き取りを行い、ご本人の想いに沿ったケアができるように不安の解消を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを利用している際には、担当ケアマネージャーや他職種の協力を仰ぎながら、現在の支援をホームでも引き継げるよう努めている。又、どのような生活を送りたいのか意向を聞きながら、ケアの方向性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にホーム内での役割をもってもらう事で、共に生活を行っていることを感じてもらっている。残存機能を生かせる本人の役割をもっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会をお願いすることで、ご家族も本人様を支援していることを伝える。又、ご本人の希望に沿い、ご自宅へ一時帰宅する等ご家族にも協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係がある場合は、面会をお願いする、もしくはこちらから出向くなど関係が途切れないよう支援に努めている。又、ご本人の馴染みの場所等を聞き、外出の支援を行っている。	ホームには入居者の昔からの友人や家族の面会が多くある。職員は入居者の馴染みの床屋に付き添ったり、希望があれば「ふるさと訪問」として誕生日に自宅や馴染みの場所へ外出したりする支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんど、フロアーにて過ごして頂いており、誰とでも会話が出来る様、職員が間に入り、雰囲気作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され、退所された後も退院後の相談を必要に応じて、行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の聞き取り、定期的の意向を聞く機会を設けている。困難な場合は、ご家族への協力もお願いしている。日常の会話の中で今の生活や希望等があれば、聞くようにしている。	入居時に本人・家族より希望や意向を聞き取り、入居後も職員との日常の会話から要望を伺うよう取り組んでいる。また、入居者の希望に応じて買い物に行ったり中庭で花を植えたりするなど、入居者の要望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のヒアリングで、入居者の状態を本人・家族・病院、施設より情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中・夜間は記録シートに生活の様子を記録することで、その場にはいない職員も細かい部分まで把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成に関しては本人・家族・介護職員と共に話し合いを行いながら、作成を行う。日々の生活状況に関しては処遇記録を基に今後の課題を見つけている。ご家族には面会時に計画の説明や希望を聞いている。	ホームでは計画作成担当者と入居者の担当職員が相談しながら、入居者・家族の意向に沿った介護計画書を作成している。全職員が介護計画を実践できるよう支援経過記録にも内容を記載し、計画に沿ったケアの可否が分かるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	処遇記録の上段にケアプランを記載して、常にケアプランを確認しながら、支援やできる事、出来ない事等の見直しができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の入居者の訴えに関しては、その時にあった対応を心掛け、施設内に関わらず、外部社会資源も活用するようにしている。又、家族の希望等、その都度、聞きながら、希望に応じた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントごとには積極的に参加している。季節にあった地域資源を活用し、支援を行っている。(祭り、文化展等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一つの医療機関に偏るのではなく、入所前からお世話になっている医療機関等を利用して。又、病状にあった専門医への受診も嘱託医、家族と相談しながら、支援を行っている。	ホームでは入居者・家族の希望を尊重し、入居前からの主治医変更は行っていない。定期受診については基本的には職員が対応し、必要時や遠方の専門医受診などについては家族に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師からの処置の指導等、入所者の健康についての相談を行い、訪問看護師ノートを作成し、職員のケアの統一を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	連携室との連携により、入退院をスムーズに行っている。退院後もアドバイスをもらいながら、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関、家族、施設と協議を行い、重度化に伴う問題を総合的に考えることにより、本人様が一番いい形を選択して頂けるような環境を整える手助けを行っている。今年度は看取りは行っていないが、今後、ここで最期までという家族の希望の方も数名、いらっしゃる。	看取りに関し、ホームでは入居時及び看取りの対象となった場合に入居者・家族の意向を確認している。職員は看取り専用の記録を作成し、関係機関との情報共有を図っている。看取り後には職員間で振り返りを行い次に繋げるとともに、看取りを行った職員の精神面のケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した際のマニュアルの作成を行い、緊急の際はいち早くご家族、医療機関へ連絡できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災時の初期対応、避難誘導の手順の確認を随時行っている。町内会にも加入している為、その都度、協力をお願いをしている。消防避難訓練を行っている。5月…日中の火災訓練 9月…地震想定避難訓練(備蓄倉庫にて保管している)	ホームでは日中・夜間・火災・地震など様々な災害を想定したマニュアルを作成し、地域の協力を得ながら訓練を行っている。備蓄品一覧表も作成し備蓄倉庫の管理もできている。発電機も新たに購入し、事業所・法人内だけでなく、必要時には地域の方にも使用してもらえよう地域に発信している。	災害対策に積極的に取り組まれているが、入居者情報に関する持ち出し品が多い印象を受けるため、持ち出し品の簡略化が望まれる。また、避難先で入居者の状態が把握できるよう例えば名札を作成するなど、今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳の気持ちを持って接している。共同空間でのプライバシーへの配慮もおろそかにならないようにしている。声掛けも相手と同じ目線で声掛けするように心がけている。	職員は排泄の失敗などの際、周りの方に気付かれないようそっと声を掛けたり別の場所へ誘導したりするなど、その方の尊厳に配慮した支援に努めている。臭いについても入居者が不快に感じないようにポータブルトイレには消臭剤を入れて定期的に換気を行っている。入居者に話し掛けたり呼んだりする際には近くまで行って声を掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも行動を行う場合には、必ず声かけを行い、本人の自己決定を優先している。本人の思いを聞きやすい雰囲気作りを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて、声かけ、誘導介助を行っている。利用者の希望で、その日の内容を決めたりすることもある。(外に散歩に行きたい、買い物をしたい等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、まずは身だしなみを整え、歯磨き、洗顔を行ってもらっている。希望に応じて、パーマやカラーも行えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を毎日掲示したり、定期的な行事食で、個人の好みに合ったパン食や好きなものを盛り込むようにしている。誕生会には手作りケーキを作り、食べて頂いている。彼岸にはおはぎを一人一人丸めて食べて頂いている。	食事は外部に注文しているが、最終的な盛り付けや一人ひとりに合わせた食事形態への仕上げはホームで行っている。入居者の希望に合わせて主食をパンにするなど臨機応変に対応するほか、入居者の誕生日には職員手づくりのケーキを食べることができる。職員は入居者に座ってできる作業をしてもらうことで役割のある生活が送れるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は1日数回時間を設けて摂って頂いている。又、管理栄養士による献立により、栄養バランスのとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行うよう、誘導介助を行い、自力にて口腔ケア出来る人には行ってもらい、出来ない方は、声かけ、一部介助、全介助を行っている。又、必要に応じて、歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回、排泄表への記入を行い、排泄感覚の把握を行い、声掛けにて少しでも失敗をなくす取り組みを行っている。又、日中はトイレ使用、夜間のみポータブル、オムツ使用している。訴え時には介助を行っている。	職員は排泄表を活用し、定期的に声を掛けることでオムツ使用の軽減に努めるとともに、入居者を便座へ移乗介助した後はドアの外で待機し、入居者からの声掛け後に入室するよう心掛けており、プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の歩行訓練・水分摂取量の増加、必要に応じては、便秘薬・下剤も使用するなどして、定期排便を目指す。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を行ってもらっている。その方に応じ、一般浴、リフト浴を使い、状態に合わせて、入浴を楽しんで頂いている。本人の都合もできるだけ聞いている。週2~3回の入浴だが、本人の希望も聞き、支援も行っている。	ホームでは入居者の状態に合わせて一般浴とリフト浴にて対応している。入浴拒否がある方については時間や職員を替えるなど工夫し、場合によっては日にちを変更している。職員は季節に応じてゆず湯やしょうぶ湯などを準備し、入浴が楽しみとなるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中はレクやフロアで過ごして頂くよう声かけを行い、夜にぐっすり休んで頂くよう支援している。眠れない場合は主治医と相談し、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に医療機関との確認を行っている。また、薬情を個人処遇に挟んで、介護職員は、常に確認できるような体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴にあった支援ができるように希望を聞きながら、又、ご家族にも相談しながら、喜んでもらえるような支援を行う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ、外出支援を行っている。誕生日には本人の行きたい所、自宅や馴染みの場所等への外出の支援を行い、ご家族の方にも喜ばれていた。誕生日には好きな食べ物を食べるに外食支援も行っている。誕生日以外でも墓参りや家族に会いたい等の希望を聞き、支援している。	職員は入居者とともに日頃からホーム周辺の散歩に出掛けており、花見や初詣、地域の祭りなどの各種イベントにも外出できるよう支援している。また、入居者の希望に応じて家族との外出についても支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人には、金銭管理を個人で行ってもらっている。管理できない方には施設管理やそれにかわる管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた際は本人へ届けるようにしている。また、手紙の返事を書く支援を本人としている。電話の希望や取次も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物を飾るなどして、季節感を楽しんでもらっている。(職員の手作りや入居者様の手作り等)昨年11月に全館のエアコンの入れ換えを行った。定期的に空調管理を行っている。ウッドデッキの床の張替えを2月に行い、いつでも出られるようにしている。	ホーム共用空間はエアコンにより室温を管理しているが、入居者に暑さや寒さなど適度に季節を感じてもらえるような温度設定を心掛けている。昨年2月には中庭のウッドデッキを改修し、いつでも出ることができるようになり、季節の花を育てることで季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置し、和室でもくつろいでもらえるよう環境を整えている。又、居室への訪問も自由に行っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド・畳を選択して頂き、本人にあった家具を使用してもらっている。馴染の家具や道具を持参してもらうようお願いをして、仏壇、写真や賞状、小物などを飾っている。居室のポータブルは使用しない時は布で目隠しをするようにしている。	現在、居室に畳はなくベッドのみで対応しており、入居者の重度化に対応すべく介護用ベッドに移行中である。居室には入居者が自宅で使っていた馴染みの家具が持ち込まれ、快適な居室空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は手すりがある為、歩きやすい。また、トイレにはトイレと分かる様、目印をつけ、居室が分からない方には、本人の名前を大きく記載している。安心して生活できるように工夫をしている。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 B

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を毎日唱和する事で職員の意識付けをすることにより、利用者一人一人に満足出来るように行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事ごとへの参加、交流をしている。又、事業所のイベントなどの案内を出し、参加して頂き、交流を行っている。又、自治会に入る事で地域との繋がりを保つことができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に入所申し込みに来られる方々にその人にあった福祉サービスを専門職として相談に乗り、ご案内している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回、行っている。現状の報告やそこでの意見交換を行い、意見の反映をしている。5月と9月に行った。9月には災害時の避難訓練を行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	親しくしている市議会議員さんからの市政の情報や悩みなどを相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し、極力身体拘束を行わないように検討を行っている。現在、身体拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法に関し、施設内、外の研修を設け、意見交換を行い、知識向上に努めている。8月21日、連絡協議会の虐待の研修に参加しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、研修機会を設けているが、対象者が入所された場合には活用できるようにしたい。今の所は利用されている入所者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、担当を決め、説明不足がないように心がけている。家族の方の不安や利用者の不安を少しでも軽減できるよう、配慮に努めている。今年は新入所、退所者はいない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じ、家族会を開催し、ご家族からの要望に対応、説明できるようにしている。又、面会に来られた時などにも家族の方に最近の状態などの説明に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期開催の全体会議で、施設長や管理者へ職員の意見を聞いてもらう機会を設けている、又、その日にいない職員に関しては連絡帳を通して職員に伝えている。月に1回、法人合同の全体会議にも参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に応じて、レベルにあった指導を心掛け向上心を持ち続けるように努めている。職員の意見にて働きやすい環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会、初任者研修を始め、研修に参加している。又、介護福祉士会の研修にも参加している。職員個々の良い所を評価してあげる事で貢献してもらえるように心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会でさまざまなイベントを行っているため、それに参加し、職員間の交流を図っている。風船パレー大会、定期的な研修会等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が今まで生活されて来られたリズム等を職員も共有しながら、一日も早く、安心して心地よく生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前相談を利用し、施設内の説明を行い、ご家族の思いを聞き、少しでもご家族、ご本人のご意向に沿えるように検討する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用しながら、他のサービスの必要性があれば、ご家族とサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としては、もちろんの事、お互いの悩みを相談することにより、少しでもよい関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への定期的な面会をお願いしている。その他、ご希望の場合は、ご自宅への送迎を行い、家族で過ごせる時間の支援を行っている。誕生日等、本人の希望があれば、自宅までの送迎を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどの外出支援に関しては、皆さんの行きたいところの希望に沿って行っている。初詣には近くの神社に行き、馴染みの宮司さんと会話をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等、チームに分けて行ったり、個別でも行い、楽しみを分かち合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じては相談にのれることも話している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしいケアをする為に本人からの聞き取りはもちろんの事、ご家族、職員が検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を作成前に本人やご家族からの聞き取りを行う事により、今までの生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	処遇記録を作成し、一日の生活を記録することにより、無理のない生活サポートを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族の意向をよく聞いた上で定期的に担当者会議を開き、生きがいのある生活を送ってもらえるような介護計画作成に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	処遇記録、連絡ノートを活用するなど、情報共有を行いながら、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	楽しんで頂けるレクの考案や安心して過ごして頂ける環境環境づくりに努めている。また、可能な限り、希望に合った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内慰問のボランティア様による催し物の見学に行っている。又、職員や家族からの情報で外出支援を企画し、外出支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を大切にし、昔からの状態を分かってくれている医療関係者をお願いしている、必要に応じては他の医療機関受診も検討している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護看護師来荘時に、医療的な注意事項、知識の習得など、アドバイスを頂きながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人、家族の意向を大切にし、施設での対応可能なケアも相談し、必要な場合は、病院入院も検討している。連携室と連絡を取り合うなど、対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のケアをどのように行うのか本人、家族、施設で確認を行いながら、必要に応じ、外部サービスをすすめるなど、柔軟な対応を行っている。入所時に終末期の医療についての事前調査書の記入をして頂き、本人、家族の意向を確認している。今年度は看取り介護は行っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年1回(7月)に法人合同にて救急法の訓練を行い、救急法のスキル習得等、緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時に動けるよう、定期的な訓練を行い、入所者の安全に努めるよう努力している。また、定期的に、施設内外の点検を行っている。1年に3回の消防避難訓練を行っている。現在、5月(日中の火災訓練)と9月(地震想定)に行った。3月には夜間の火災訓練(消防署立会い)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った言葉かけを行っているが、なれ合いになりすぎた場合などは、職員間で注意を行うなど、言葉かけには注意している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段より本人様から希望を気軽に話せる雰囲気作りをしている。自己決定が難しい方に関しては、具体的な内容に絞ったり、工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちや体調を優先し、その方のペースで過ごしてもらえるよう希望を聞きながら働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2~3か月に1回、美容室の方に訪問して頂き、出張散髪をして頂いています。又、希望があれば、買い物に行き、洋服等の購入をして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会の食事の飾りつけや、季節のおはぎやお菓子作りを一緒に行っている。食後の下膳やごみ捨て等、役割を持って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食べる量を個別に調査を行い、脱水にならないように水分を多めに飲んでもらう等の健康管理に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを声掛けし、口腔ケアに取り組んでいる。本人の状態に応じて、出来ない部分のケアを支援している。夕食後、義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度にならない限り、なるべくオムツに頼らないよう定時のトイレ誘導介助、2人介助による排せつ介助を行い、オムツ使用を減らすよう心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前に牛乳、午後にアクエリアスなどで水分補給を行っています。便秘にならないように運動なども心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴も声かけを行い、1人で入浴を行えない場合も、リフト浴を活用し、安心して入浴が出来るよう体制を整えている。本人の希望があれば、いつでも入浴できるような体制作りを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけではなく、共用の和室スペースも活用し、休んでいただけるスペースを確保し、無理がないようにしている。温度調節も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い服薬を行い、注意事項も本人も説明を受け、副作用に関しても柔軟に対応できる仕組みを作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ってもらえるよう働きかけ、自分の居場所づくりを作れるよう支援している。本人の趣味や特技等を行って頂く事で昔話をしたり、笑顔を見ることが出来る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ、買い物支援を行う。必要に応じてはご家族と買い物を楽しんでもらえるよう働きかけている。又、本人の意向を聞き、外出支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理に関しては、自由であるが、トラブルにならないよう声かけ対策を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙に関しては、本人に直接かわるなど、制限を設けていないので、楽しみになるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	集団生活の中では、個々の好みがあるので、共用の場は、なるべくご本人の嫌な空間にならないよう聞き取りを行っている。自室に関しては、家族、本人の好みに合わせて部屋を作っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のソファ、食事を囲むテーブルなど、一人にならないよう居場所に工夫を設けている。職員が間に入りコミュニケーションをとっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人が以前生活していた部屋になるようご家族にお願いをしている。ご家族、お孫さんの写真などを持ってきて頂き、楽しみの一環になっている。又、仏壇を持って来られている方もいらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の残存能力を發揮できるような声掛けをし、支援を行っている。又、安心して生活ができるような工夫をしている。		